

## 平成23年度 第1回 松阪市環境審議会 議事録

日時：平成23年9月22日（木）10時00分～12時10分

場所：松阪市役所 第二分館教育委員会室

出席者：14名

審議会委員 11名

吉田弘一（会長）、富田靖男（副会長）、門暉代司、杉崎清子、  
須藤弘、筒井弘佳、牧戸継右、山本清巳、木原寿代、西川浩美、  
野田宰治

事務局 3名

三田環境課長、山口環境推進担当主幹兼係長、  
環境推進係（垣本）

### 〈議 事〉

#### 1. 松阪市環境基本計画中間見直しの概要説明について

・事務局より見直しの概要、策定に係る組織体制、策定委員会の検討による主な改正点について説明

#### 2. 松阪市環境基本計画中間見直し版（案）第1章～第7章の審議

・事務局より見直し版（案）の内容説明

会長：何かご意見、ご質問ありますか？

副会長：今回は、以前に策定されたものを見直し修正することであるので、これは本来であれば「松阪市環境基本計画 第一次改訂」になるのではないかと？策定委員会も策定当時のメンバーでなければ意味がない、と思うのだが。

事務局：これは、資料として「松阪市環境基本計画 中間見直し版（案）」としているのであって、実際は改訂版となる。策定時と今回の見直しのメンバーは任期の都合上変更になったが、再選を妨げないということから、前回の策定委員会メンバーも含まれている。

副会長：本文の内容について。

P11、表が見づらい。

P13、表は前回の横型の方が見やすい。

P15、3段目に中村川のネコギギを追加。

P26、9段目「三雲管内においても導入し、」←「し」を追加。

P32、「人の心がうるおう環境につつまれるまち」←「ち」を追加。

P37、飯南地域の基幹産業として、「畜産業」も追加。

P49、「総合運動公園」は広大な森林を伐採して造ったものであり、他の都市公園等と同じ扱いでいいのかどうか検討すべき。

P60・61、「地域材」は「地産材」では？

P64、「(2) 市域の動植物の生息～データベースの作成を検討します。」を是非とも「～作成する。」にしてほしい。

委員：非常に立派な冊子だが、いかに実践していくかが重要になるので、より掘り下げた施策を提示してほしい。また、合併後の地域格差が大きく、なかなか是正されない。環境問題解決のためにも具体策がほしい。中村川は雲出川の支流であるので、雲出川の施策もほしい。河川公園の課題でもあるゴミ問題等の記述がほしい。河川公園は自然環境が豊富であるが、砂利採取により破壊されてしまった。この辺りもなんとかしてほしい。また、三雲地域には公園が無いが、この公園面積は正しいのか？松阪市内でも人口密度が高い三雲地域に公園が無いのは問題であり、施策が必要だと思う。また、三雲地域は三雲の散策マップを作り環境教育の一つとして活動しているので、この記述も挙げて欲しい。

事務局：ここで頂いた意見は策定委員会にて検討し、修正する必要があるれば修正する。住民協議会の環境教育については、P98・99に記載している。

委員：P44・45、「環境目標」について、以下の変更を提案する。

「川・海における BOD・COD の環境基準適合率の上昇」

「生活排水処理施設の普及率の向上」

「1人あたりの都市公園面積の増加」

「1人1日あたりのごみの排出量の削減」

「1人1日あたりのエネルギー（電気）消費量の削減」

「1人1日あたりの二酸化炭素排出量の削減」

「松阪市環境パートナーシップ会議の会員数の増加」

「目標」→「目標値」

P50「ごみの排出量」は、産廃を含まない一般ゴミであることを明示すべき。

P51「電気使用量」は、大規模工場を含まない民生部門であることを明確にするべき。

委員：名称や常識的なことについて、誤りがないようにしてほしい。

P12、クヌギは天然林に無いので、シイ、カシにすべき。「天然林」を「自然林」に変更する。

P13、全体の文章が稚拙、見直すべき。

P15、多くの人を知っている生物を代表として挙げるべき。

P37、「鳥害獣」「害獣」→「野生鳥獣害」に修正。

P77、「動物を飼う時は～大切にします。」→「動物を飼う時は～大切にし、近隣住民の迷惑にならないように努めます。」

会長 : 修正の数も多く細かいので、正誤表にして事務局に提出してもらいたい。

委員 : わかりました。

委員 : 「協働」が「連携・協力」に変更になったのはなぜか? 「協働」は今後、住民協議会等が立ち上がっていく上で重要になってくると思うのだが、なぜ変更したのか、その議論の経過を聞かせてもらいたい。

事務局 : 策定委員会でも議論したが、総合計画で「連携・協力」を多用しており、「協働」は一つの目標に向けて皆で行動していくのに対し、「連携・協力」はそれぞれが目標に向かって行動していくことで、結果一つの目標に繋がっていくことになるということで、今回「連携・協力」を採用した。

委員 : 「連携・協力」は「協働」よりも後退した感じが否めない。「協働」の最たるものが松阪市環境パートナーシップ会議だと思うが、そこまでも「連携・協力」に変わってしまった。ここは十分検討するべきである。

委員 : 「協働」は全員が対等の立場であり、全員がリーダーシップを取ることであるのに対し、「連携・協力」には言葉以上の意味がない。今回削除されたのは一步後退したことになる。策定委員会メンバーも変わったことで、初心が忘れ去られたように感じる。

委員 : 住民協議会にはいろんな会員が入会しており、実際には「協働」は難しい。「連携・協力」の方がいいと思う。

委員 : もう一度検討願いたい。

委員 : 施策の優先順位を出して欲しい。長期的、中短的な施策分けもお願いしたい。

委員 : P59「貴重な動植物の生息・～」→「生物多様性と貴重な動植物の生息・～」に変更。

P46、以前のように各地点の基準適合状況を載せる予定はあるのか?

事務局 : 載せる予定は無い。

委員 : 適合基準率の低い理由と対策が必要。松阪市の ISO14001 の今年度の結果は?

事務局：今年度はまだ出ない。ISOではなく、「エコフィスアクションプログラムまつさか」  
としての結果はHPなどで公表している。

委員：エネルギー等、削減できない項目に達成できない目標値を掲げるのはどうかと思  
う。一つの警鐘として受け取るのか。

会長：多くの提案がでたが、事務局何か？

事務局：次回の会議開催通知と共に、再度策定委員会にて検討した修正版を送付する。

事務局：他に意見等があれば、事務局まで連絡してほしい。

会長：では、今日はこれで終わります。